

## 第6回第二次昭島市水道事業基本計画策定委員会議事録（要点録）

平成30年3月6日  
午後7時00分～  
水道部会議室

出席者  
委員)

JWRC 技術顧問：伊藤氏  
一橋大学大学院社会学研究科：大瀧氏  
公認会計士：梅澤氏  
昭島市自治会連合会：横山氏  
昭島市消費生活者連絡会：山下氏  
昭島ガス株式会社：井上氏  
昭島市商工会：清水氏  
公募市民：蔵方氏  
公募市民：高橋氏

市)

白井市長、丹羽部長、沖倉業務課長、南澤工務課長、野口庶務係長、高瀬料金係長、  
小林工務係長、鎌田給水係長、羽生浄水係長、渡邊水道施設計画担当係長、  
高玉庶務係主任

受託者（東京設計事務所）

馬場、戸来、竹内

### 1. 【資料1】第5回議事録の確認

第5回議事録について、承認を得ていることを確認した。

### 2. 【資料2】【資料3】第二次昭島市水道事業基本計画（案）の提出

第二次昭島市水道事業基本計画（案）を市長に提出した。提出にあたって委員長からこれまでの委員会の総括があった。概要は以下の通り。

- 平成29年6月から5回にわたり委員会を開催し、その中で前回計画を振り返り、今回計画を作成してきた。前回計画作成から現在までに、国では水道ビジョンが見直され、新たな柱である安全、強靱、持続が示された。本計画は新水道ビジョンに沿った形で再整理したものである。事業計画を作るにあたってはアンケートを実施し、市民が水道に対してどのような考えを持っているか、どのようなことを期待しているかといったことを調査した。本計画の施策は、これまで通り継続するもの、これ

までより強化するもの、新しく始めるべきものという形で内容を整理した。新しく始める施策の中にはこれから具体的な内容を検討するものもあるので、着実に施策を実施してほしい。水道というのは水が出るのが当たり前と思われているが、何もしなければ水は止まってしまうものである。本計画は今後 10 年間の水道の計画であり、これを基に必要となる事業を実施していただきたい。昭島市は人口 10 万人都市であるが、人口はまだ減少傾向になっておらず、水質も非常に良好と恵まれた環境である。しかし、将来的には人口は減少していくと見込まれているため、今のうちにインフラ整備をしっかりと行っていただきたい。

市長からご挨拶があった。概要は以下の通り。

- ・ 委員長並びに委員の皆様には、10 か月という長期にわたり昭島市の水道事業の将来計画を検討する委員会に参加いただき感謝申し上げます。昭島市は公共（市）が自ら運営している事業である。昨年の週刊ダイヤモンド社の記事では、水道事業危険度ランキングで昭島市は最も安全な水道事業との評価であった。市内のクリーニング会社からも、地下水 100%の水で洗ったシーツは良い評価を受けていると聞いた。今後も昭島のたからである地下水由来の水道水を市民の皆様安心して飲んでいただけるよう、持続可能な水行政を進めていきたい。

副委員長から委員会のご感想があった。概要は以下の通り。

- ・ この委員会の案内をいただいた際に、開始時間が 19 時からということで、仕事後に参加可能な時間帯から始まる委員会というのは、本当に市民の声を聞こうとしているのだと感じ感銘を受けた。熊本の地下水は有名であるが、東京都では昭島市が地下水であるというのは案外知らない方が多いと思う。末永く地下水を使っていくためにも、基本計画にあるとおり、地下水の保全に努めていただきたい。

各委員からご感想、ご意見があった。概要は以下の通り。

- ・ 委員会に参加して、水道事業の持っている財政面だけではない課題に触れることが出来た。数字から見ると、昭島市は本当に恵まれているが、これからも他事業体の手本となるような運営をしていただきたい（梅澤委員）。  
→ライフラインの整備はしっかりしつつ、財政とのバランスを取りながら運営していきたい（市長）。
- ・ 大切な水をもっと有効に使えるのではと考えている。水を扱う企業などを誘致すれば、雇用も生まれるなど良い効果があるのではないかと考えている（清水委員）。  
→現在、水を扱う民間企業が市内にラグビーグラウンドを建設する計画がある。このような機会をとらえ、例えば水を使う研究所を誘致するなど、積極的に検討していきたい（市長）。

- ・ 毎日飲んでいる水であるが、委員会に参加してまさに「だから」と感じた。地域の皆さんに PR していきたい。また 30 年以内に東京直下型地震が来ると言われているため、震災対策はしっかり行ってほしい。さらに、市外の人に昭島の水のおいしさを味わってもらうために、駅などに昭島の水を飲む施設を作れば、昭島の地下水の PR になるのではないかと（横山委員）。  
→市が水道水をペットボトルで販売することはできないが、民間企業が民間の井戸から取水した地下水を昭和記念公園内のプール施設で販売した事例もある。いろいろな戦略を模索していきたい（市長）。
- ・ 委員会に参加して、非常の多くの人の手がかかっていることがわかった。これからはずっと昭島の水を使い続けたい（山下委員）。
- ・ 昭島ガスとして、同じインフラということで今後整備の中でいろいろなアイデアを出しながら支援を行えたらと思っている（井上委員）。
- ・ 安定した経営で、安心の水道水を作っていることが良くわかった（蔵方委員）。
- ・ 自分の子供や孫が昭島の恵まれた水をずっと飲むようにという思いから委員会に参加させていただいた。PDCA をきちんと回し、いつまでもおいしい水を飲むようにしていただきたい。北海道の山林では外国企業が所有権を得て水を持って行っているというが、昭島も同じようにならないよう気を付けてほしい（高橋委員）。  
→昭島市は市街地であるので、北海道の山林のような事例にはならないと思うが、考えていかななくてはならない重要な問題であると思うので、しっかりと考えていきたい（市長）。

水道部長より閉会の挨拶があった。概要は以下の通り。

- ・ 委員長、副委員長、各委員の皆様には改めて感謝を申し上げます。今後 10 年間、本計画に沿って事業を展開することで、市民の皆様には安全でおいしい深層地下水 100%の水道水を安定供給できるものと考えている。本日市長に第二次昭島市水道事業基本計画（案）を提出したことにより、第二次昭島市水道事業基本計画策定委員会の業務を終了するものとする。

以上